

津島洲崎遺跡

福岡県筑後市大字津島所在遺跡の調査
筑後市文化財調査報告書
第 91 集

2010 年（平成 22 年）
筑後市教育委員会

つしますざきいせき
津島洲崎遺跡
第3次調査

2010年（平成22年）
筑後市教育委員会

序

本書は、九州新幹線筑後船小屋駅周辺整備事業に伴い、平成 20 年度に筑後市教育委員会が発掘調査を行った津島洲崎遺跡第 3 次調査の記録です。

当遺跡周辺では、縄文時代の落し穴や弥生時代の住居跡、近世の道路跡まで、様々な性格の遺跡が確認されており、時代による人々の営みの変化が伺えます。

今回の調査では、中世から近世の溝などが確認されました。これまでの成果とあわせて、この調査記録が今後の調査研究に活かされていくことを期待します。また、本書が地域における文化財保護への理解を深める一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、多大なご協力を賜りました関係者の方々に心より御礼申し上げます。

平成 22 年 3 月

筑後市教育委員会
教育長 城戸一男

例言

1. 本書は平成 20 年度に筑後市教育委員会が行った津島洲崎遺跡第 3 次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行った。出土遺物、図面、写真等は筑後市教育委員会で収蔵、保管している。発掘調査及び整理作業の関係者は第 I 章に記している。
3. 本書に使用した図面の遺構図は吉村由美子が作成し、遺物実測及び図版浄書は横井理絵が行った。
4. 本書に使用した遺構・遺物の写真撮影は吉村が行った。
5. 今回の調査に用いた測量座標は国土調査法第 II 座標系（世界測地系）を基準としている。
6. 本書に使用した遺構の表示は以下の略号による（筑後市における埋蔵文化財の取り扱いについて：2002 に準拠している）。
SD - 溝 SK - 土坑 SP - ピット SX - 不明遺構
7. 本書の編集、執筆は吉村が行った。

目次

I . 調査経過と組織	1
II . 位置と環境	2
III . 調査成果	4

写真図版

I . 調査経過と組織

津島洲崎遺跡は筑後市大字津島字洲崎に所在する。九州新幹線筑後船小屋駅関連施設整備事業に伴い、平成 20 年 7 月に筑後市長桑野照史（建設経済部都市対策課）から試掘・確認調査依頼が筑後市教育委員会に提出され、担当課である社会教育課文化スポーツ係が現地での試掘調査を実施した。試掘調査の結果、一部で遺構が確認されたため、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行った。遺跡の確認された部分には駅ロータリーの建設が予定されていたため、恒久構築物である道路部分について本調査を実施することとなった。本調査については、平成 20 年 12 月 2 日から平成 21 年 3 月 6 日まで現地での本調査を行い、整理報告書作成作業を平成 22 年 3 月に完了した。

発掘調査に関わる調査組織は以下のとおりである。

1) 平成 20 年度（事前審査・本調査）

総括	教育長	城戸 一男
	社会教育部長	田中 優一
庶務	社会教育課長	永松 三夫
	文化スポーツ係長	田中 純彦
	文化スポーツ係	永見 秀徳
	(文化財担当職員)	小林 勇作
		上村 英士
		吉村由美子（嘱託：事前審査・本調査担当）

2) 平成 21 年度（報告書作成）

総括	教育長	城戸 一男
	協働推進部長	田中 優一
庶務	社会教育課長	山口 辰樹
	社会教育係長	田中 純彦
	社会教育係	小林 勇作
	(文化財担当職員)	上村 英士
		中島 征弘
		吉村由美子（嘱託：報告書担当）

3) 発掘調査参加者

石橋香代美・井上むづ子・今山三咲子・植田 勝子・蒲池 京子・河添 幸子・隈本 千城・下川 義文・角 里子・田島 和弘・田島 小織・田島 英樹・田島ヤス子・田島 好江・田島 里恵・田平 利彦・堤 義弘・富安 英子・中村 富男・中村 三男・橋本 高登・原 秋子・堀田 武利・三瀬美樹子・満川香代子・本村 弘年・渡邊 泰子

4) 整理作業参加者

野口 晴香・野間口靖子・横井 理絵

II. 位置と環境

1. 地理的環境

筑後市は福岡県の南西部、筑紫平野の中央部に位置する。市域をJR鹿児島本線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市南西部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域には果樹園や茶畠、東部には米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は国道に沿って市の中心部に形成されている。

今回報告する津島洲崎遺跡は筑後市の南部、矢部川北岸の後背湿地上に立地する。

2. 歴史的環境

津島地区では、縄文時代から近世までの様々な遺跡が確認されている。

本調査地点の北に位置する津島餅町遺跡 1 次^[注1]、津島野内遺跡^[注2]では縄文時代の落し穴状遺構が検出されている。

JR船小屋駅の南西に位置する津島丸反坪遺跡^[注3]では弥生時代前期の溜井状遺構が確認されている。また、津島野内遺跡では中期の甕棺墓と竪穴住居、津島餅町遺跡 2 次調査^[注4]では後期の竪穴住居が検出されている。津島皿ヶ町遺跡^[注5]では中期から後期にかけての掘立柱建物が検出され、湿地上に集落が営まれた可能性が指摘される。

周辺では古墳時代以降の集落本体は確認されていないが、津島南佛生遺跡^[注6]や津島南笹原遺跡^[注7]では古墳時代初頭の廐棄土坑群が検出されている。

本調査地点に隣接する津島洲崎遺跡 2 次調査^[注8]では、中世の水田跡と考えられる水平堆積を認めたほか、近世薩摩街道の前身となる道路跡が検出されている。一方、矢部川の自然堤防の外側という立地上、たびたび氾濫による水害に見舞われた地域でもあり、近世、田中吉政の治世以降、築堤・治水工事が行われた記録が残る。

【注】

1. 小林勇作「津島餅町遺跡（第1次調査）」「九州新幹線関係遺跡」筑後市文化財調査報告書第89集 筑後市教育委員会 2009
2. 小林勇作・吉村由美子「津島野内遺跡（第1次調査）」「九州新幹線関係遺跡」筑後市文化財調査報告書第89集 筑後市教育委員会 2009
3. 立石真二「津島丸反坪遺跡」筑後市文化財調査報告書第42集 筑後市教育委員会 2002
4. 永見秀徳・吉村由美子「津島餅町遺跡（第2次調査）」「九州新幹線関係遺跡」筑後市文化財調査報告書第89集 筑後市教育委員会 2009
5. 永見秀徳「筑後西部第2地区遺跡群（Ⅰ）」筑後市文化財調査報告書第26集 筑後市教育委員会 2000
6. 小林勇作・立石真二「津島南佛生（第1・第2次調査）」「筑後西部第2地区遺跡群（Ⅰ）」筑後市文化財調査報告書第21集 筑後市教育委員会 1999
7. 立石真二「津島南笹原遺跡」「筑後西部第2地区遺跡群（Ⅰ）」筑後市文化財調査報告書第21集 筑後市教育委員会 1999
8. 永見秀徳・吉村由美子「津島洲崎遺跡（第2次調査）」「九州新幹線関係遺跡」筑後市文化財調査報告書第89集 筑後市教育委員会 2009

【参考文献】

「筑後市史・第一巻・」 筑後市 1998

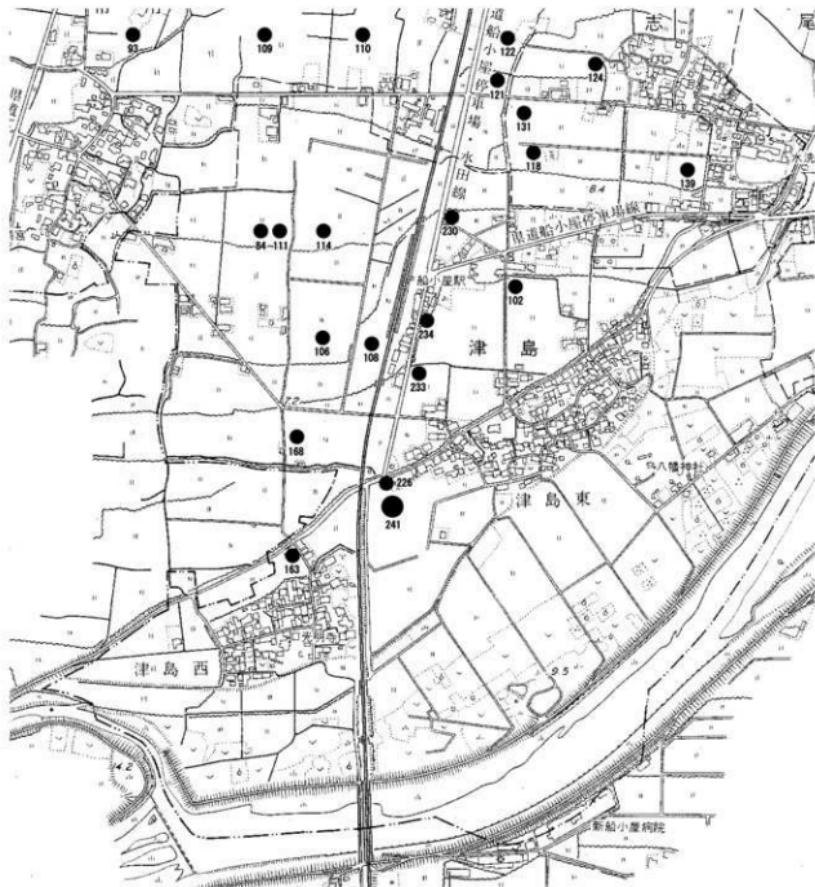


Fig.1 周辺遺跡分布図 (1/10,000)

*調査番号は、当市採用の調査番号を掲載

調査番号	遺跡名	調査番号	遺跡名	調査番号	遺跡名
084	津島南佛生遺跡(第1次調査)	111	津島南佛生遺跡(第2次調査)	163	津島洲崎遺跡(第1次調査)
093	常用長田遺跡(第1次調査)	114	津島南笠原遺跡(第1次調査)	168	津島九反坪遺跡(第1次調査)
102	津島西美田遺跡(第1次調査)	118	志野野々遺跡(第1次調査)	226	津島洲崎遺跡(第2次調査)
106	津島北石伏遺跡(第1次調査)	121	常用野中遺跡(第1次調査)	230	津島野内遺跡(第1次調査)
108	津島四ヶ町遺跡(第1次調査)	122	志下野村遺跡(第1次調査)	233	津島耕町遺跡(第1次調査)
109	常用相利遺跡(第1次調査)	131	志西田遺跡(第1次調査)	234	津島耕町遺跡(第2次調査)
110	常用野々下遺跡(第1次調査)	139	志垣高遺跡(第1次調査)	241	津島洲崎遺跡(第3次調査)

III. 調査成果



Fig.2 調査地点位置図 (1/2500)

(1) はじめに

道路予定箇所のうち、試掘調査で遺構が検出された 1050 m²に調査区を設定した。調査は吉村が担当し、平成 20 年 12 月 2 日より開始した。遺構の掘削は表土から遺構面までを(有)徳光建設に委託し、遺構面からは地元作業員による手作業の掘削を行った。空中写真は(有)空中写真企画に依頼し、平成 21 年 3 月 6 日に調査を終了した。

(2) 検出遺構

溝

3SD01 (Fig.3, Pla.4)

西側調査区北西端で検出した、南北方向に走る溝である。検出幅 2.8m、深さ 0.3m を測る。底面は平坦で、淡暗褐色粘質土を基調とする埋土の上に、一部灰色砂が堆積する。遺構からの出土遺物は皆無であった。

3SD02 (Fig.3, Pla.3)

西側調査区の中央付近で検出した。幅 0.7 m、深さ 0.2m を測る。淡灰色砂を基調とする埋土で、灰茶色粘性砂を切り込んで堆積する。周辺では数条の溝が切り合い、不明瞭な形を成している。土師器細片が出土した。

3SD05 (Fig.3, Pla.3)

3SD01 の東側で検出した。幅 1.0m、深さ 0.3m を測る。埋土は淡灰茶色砂の単一土層である。土師器片、瓦器片が出土した。

3SD15 (Fig.4, Pla.3)

東側調査区で検出した。検出最大幅 4.1m、深さ 0.3m を測る。地山に近似した淡茶色粘性砂を切り

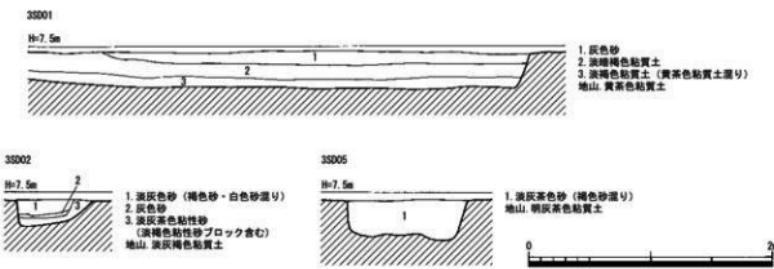


Fig.3 3SD01・02・05 土層断面図 (1/40)

込んで淡灰茶色砂質土を基調とする埋土が堆積する。土師器片、青磁片、土製品（土錘）が出土している。
3SD26 (Fig.6, Pla.3)

東側調査区の南部で検出した。幅 1.0m、長さ 10.0m、深さ 0.2m 程の深い溝状の遺構で、底面は平坦である。土師器片、青磁片が出土している。

3SD30 (Fig.4, Pla.5)

東側調査区の東端で検出した。幅 2.4m、深さ 0.3m を測る。埋土は明灰色砂質土を基調とし、淡茶白色粘性砂、明茶灰色砂質土を次々切り込むように堆積する。土師器片、瓦器片、白磁片が出土しているが、いずれも図示不能な細片であった。

3SD35 (Fig.4, Pla.6)

3SD30 の南側で検出された。幅 2.2 m、深さ 0.4m を測る。東に向かって段が付くように徐々に深くなつていく様相を呈する。埋土は明茶灰色砂質土を基調とする。土師器片、染付片が出土している。

3SD45 (Fig.6, Pla.3)

東側調査区の北部で検出された。幅 1.7m、深さは 0.1m 程の深い溝で、西側は 3SD15 に切られる。土師器片、青磁片、染付片、土錘が出土している。

3SD50 (Fig.6, Pla.3)

東側調査区の西端で検出した。幅 3.3m、深さ 0.2m を測る。端部は不明瞭で、複数の遺構が切り合っている可能性もあるが、埋土は暗灰茶色砂質土の單一土層で、深さも一定で平坦な底面を成していたため、検出できなかった。土師器片、陶器片、土錘が出土している。

土坑

3SK06 (Fig.6, Pla.2)

西側調査区で検出した。幅 1.0m、長さ 1.7m、深さ 0.6m を測る。上部では、直径 15 cm 程の円柱状の木材が 2 本交差した状態で検出された。また、土坑中央には直径 0.6m、深さ 0.6m 程の柱穴が確認された。近現代の電柱もしくは看板の跡と考えられる。

3SK19 (Fig.6, Pla.3)

3SD26 の西側で検出した。幅 1.2m、長さ 2.2m、深さ 0.15m を測る。土師器片が出土している。

3SK21 (Fig.6, Pla.3)

3SD50 の東側で検出した。平面形態は橢円形を呈する。短軸 1.0m、長軸 1.4m、深さは 0.1m 程の浅い土坑である。土師器片が出土している。

3SK22 (Fig.6, Pla.3)

東側調査区中央で検出した。平面形態は橢円形を呈し、短軸 0.9m、長軸 1.6m、深さ 0.1m を測る。出土遺物は皆無であった。

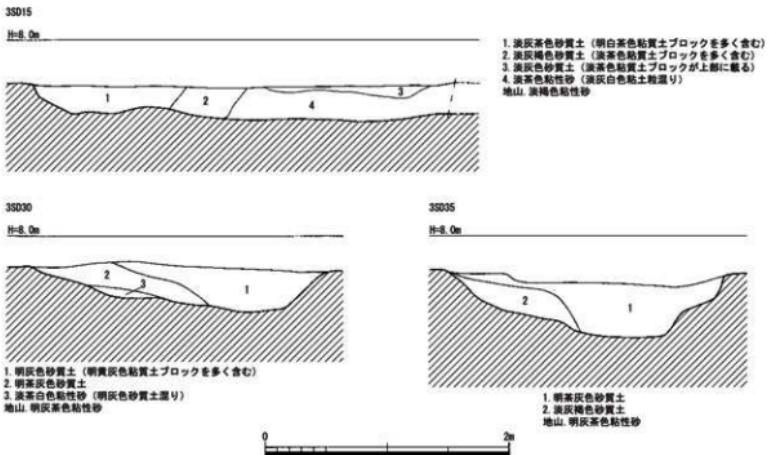


Fig.4 3SD15・30・35 土層断面図 (1/40)

3SK24 (Fig.6、Pla.3)

遺構の北側は 3SK21 に切られる。幅 1.9m、長さ 2.1m、深さ 0.2m を測る。土師器片、陶器片、染付片が出土している。

3SK28 (Fig.6、Pla.3)

東側調査区中央で検出した。平面形態は長方形を呈し、短軸 2.0m、長軸 2.6m、深さは 0.1m 程である。土師器片、陶器（擂鉢）片、青磁片が出土している。

3SK32 (Fig.6、Pla.3)

3SD45 の北側で検出した。幅 1.4m、長さ 1.7m、深さ 0.3m を測る。土師器片、瓦器片のほか、「寛永通寶」が 1 点出土している。

3SK40 (Fig.6、Pla.3)

3SD35 の西側で検出した。3SK28 を切る。幅 2.0m、長さ 3.0m、深さ 0.3m を測る。埋土は暗灰茶色砂質土を基調とし、下部には明茶色砂が堆積する。土師器片が出土している。

不明遺構

3SX03 (Fig.6、Pla.2)

3SD02 の東側で検出した。縦横に交わる溝状を呈し、縦方向は 3SD02 と平行に走る。深さは 0.1m 程で、埋土は淡灰色砂の单一土層。土師器片が出土している。

3SX04 (Fig.6、Pla.2)

西側調査区中央で検出した。平面形態は不明瞭で、幅 2.2m、長さ 5.3m、深さ 0.1m を測る。

3SX07 (Fig.6、Pla.2)

3SD05 の西側で検出した。幅 2.3m、深さは 0.1 ~ 0.15m 程で、西側は 3SD05 に切られる。土師器片、染付片、土製品（ミニチュア土器）片、石器（石鎌）などが出土している。氾濫原か。

3SX08 (Fig.6、Pla.2)

西側調査区の北端で検出した。検出幅 0.6m 長さ 1.0m、深さ 0.3m を測る。瓦器（鉢）が出土している。

3SX11 (Fig.6、Pla.3)

東側調査区で検出した。幅 0.5m、検出長 0.7m を測り、深さは 0.05m 程のごく浅い遺構である。

3SX14 (Fig.6, Pla.3)

東側調査区の西端で検出した。幅 1.0m、検出長 1.2m を測る。深さは 0.05m 程である。白磁片が出土している。

3SX16 (Fig.6, Pla.3)

3SX14 の北側で検出した。幅 0.8m、検出長 1.0m、深さ 0.05m 程の浅い遺構である。3SX23 と同一遺構となる可能性がある。土師器片が出土している。

3SX18 (Fig.6, Pla.3)

東側調査区中央で検出した。幅 2.6m、長さ 6.0m を測り、東側は溝状に延びて 3SK24 を切る。深さは 0.3m 程で、西端部に深さ 0.5m 程の窪みを持つ。土師器（壺・片）、陶器片が出土している。

3SX20 (Fig.6, Pla.3)

東側調査区の南部で検出した。検出幅 0.5m、長さ 4.3m、深さ 0.1m を測り、底面は平坦である。土師器片、白磁片が出土している。

3SX23 (Fig.6, Pla.3)

東側調査区の北西で検出した。幅 1.2m、深さ 0.1m 程の浅い溝状を呈する。3SX16 と同一遺構か。

3SX29 (Fig.6, Pla.3)

3SD30 の西侧で検出した。幅 0.3m、長さ 5.4m、深さ 0.1m 程で、細長い溝状を呈する。出土遺物はなかった。

3SX31 (Fig.6, Pla.3)

3SD30 の西側で検出した。幅 0.4m、長さ 2.7m、深さは 0.05m 程である。3SX29 と同様の溝状を呈する。

3SX33 (Fig.6, Pla.3)

東側調査区の東部で検出した。幅 0.3m、長さ 1.6m、深さ 0.1m を測る。白磁片が出土している。

3SX34 (Fig.6, Pla.3)

3SX33 の東側で検出した。周辺は複数の溜り状遺構が集まり、不明瞭な形状を呈する。幅 1.9m、長さ 3.8m、0.1 ~ 0.15m を測る。

3SX36 (Fig.6, Pla.3)

3SX33 の西側で検出した。幅 0.3m、長さ 2.0m、深さ 0.15 ~ 0.3m を測る。土師器片が出土している。

(3) 出土遺物

溝

3SD05 (Fig.5, Pla.7)

瓦器

鉢（1） 口辺部片である。外面は横方向のナデで仕上げ、明瞭な指頭痕が残る。色調は内外面とも暗灰褐色を呈する。

3SD15 (Fig.5, Pla.7)

土師器

鍋（2） 口縁部片で、端部は折り返す。外面は横方向のナデ、内面はハケ目による調整を施す。色調は外面暗茶褐色、内面淡橙茶色を呈し、外面には煤の付着が見られる。

磁器

碗（3・4） 3 は染付碗の口縁部片である。内面は淡い呉須、外面は素地を削って園線を描く。淡茶白色の素地に淡灰白色釉を施し、外面の園線部分は淡灰青色に発色する。4 は龍泉窯系碗の体部片である。外面には不明瞭な鎧蓮弁文が認められる。釉は淡灰緑色に発色する。

土製品

土錘（5） 未製品で、直径 1.3 cm、長さ 5.7 cm を測る。両側から直径 0.2 cm の孔を穿つが、どちらも貫通しない。

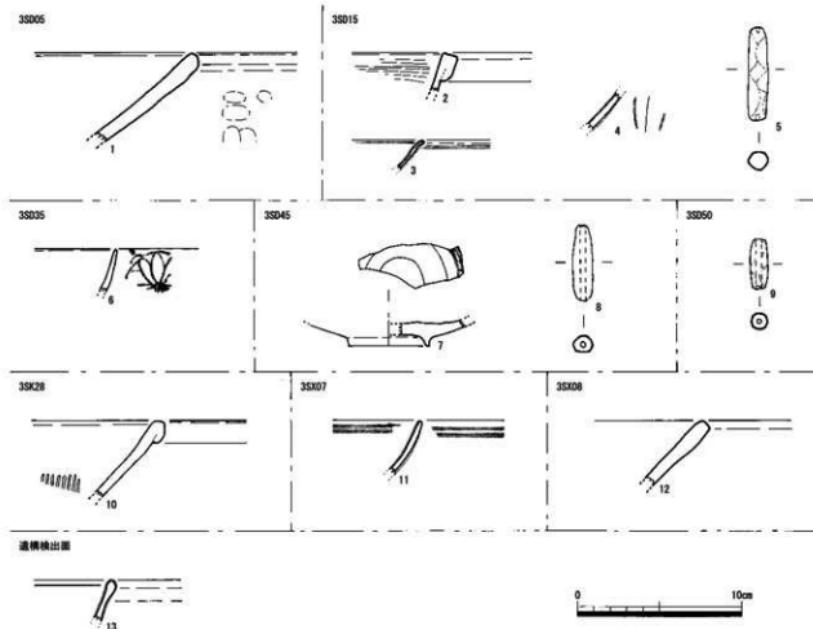


Fig.5 出土遺物実測図 (1/3)

3SD35 (Fig.5, Pla.7)

磁器

碗 (6) 染付碗の口縁部片で、外面には呉須で花の文様を描く。淡茶白色の素地に淡灰白色釉を施釉。

3SD45 (Fig.5, Pla.7)

磁器

皿 (7) 高台径 5.0 cm を復元する染付皿の底部片である。内面は淡い呉須で線状の文様を描き、その内側は蛇の目状に釉を掻き取る。高台疊付は釉を拭き取り、砂目の付着が見られる。

土製品

土錘 (8) 直径 1.2 cm、長さ 4.7 cm を測る。中央に直径 0.3 cm 程の孔が貫通する。

3SD50 (Fig.5, Pla.7)

土製品

土錘 (9) ほぼ完形で、直径 1.1 cm、長さ 3.0 cm を測る。両端部はケズリにより面を作る。中央に直径 0.3 cm の孔が貫通する。

土坑

3SK28 (Fig.5, Pla.7)

陶器

擂鉢 (10) 口辺部片で、口縁は折り返しにより玉縁状を呈する。色調は内外面とも暗赤褐色。

不明遺構

3SX07 (Fig.5, Pla.8)

磁器

碗 (11) 口縁部片で、内外面とも淡い呉須で二重の圓線を描く。淡茶白色の素地に淡灰白色釉を施す。

3SX08 (Fig.5、Pla.8)

瓦器

鉢 (12) 口辺部片で、口縁端部は平坦面を作る。色調は内外面とも淡茶灰色を呈する。

遺構検出面 (Fig.5、Pla.8)

磁器

碗 (13) 龍泉窯系碗の口辺部片である。口縁部は玉縁状を呈する。釉は淡茶緑色に発色する。

(4) 小結

今回の調査で検出された主な遺構は、数条の溝であった。これらの溝は、3SD01 を除く殆どが茶色～灰茶色砂質土を基調とする埋土で、東側調査区では東西方向、西側調査区では北東・南西のほぼ一定方向に走る。周辺には氾濫原と考えられる砂質土の堆積も見られることから、これらの溝も矢部川の氾濫に伴って形成されたものと想定される。矢部川は、近世には築堤・治水工事が行われたが、堤防や荒籠などの施設は洪水により度々破損・復旧を繰り返していた記録が残る。今回の調査でも、3SD15などを見ると、ほぼ同じ箇所に新たな溝が切り込んでおり、数度に亘って氾濫が押し寄せていた状況が窺える。

S-番号	遺構番号	性 格	時期	遺構の先後関係(古→新)	S-番号	遺構番号	性 格	時期	遺構の先後関係(古→新)
1	3SD01	溝			23	3SX23			
2	3SD02	溝			24	3SK24	土坑		3SK24→3SK21
3	3SX03	溝？			26	3SD26	溝？	中世	
4	3SX04				27	3SK27	土坑		
5	3SD05	溝	中世	3SX07→3SD05	28	3SK28	土坑？		3SK28→3SK40
6	3SK06		近代？		29	3SX29			
7	3SX07	氾濫原？		3SX07→3SD05	30	3SD30	溝	中世？	
8	3SX08	土坑？	中世		31	3SX31			
11	3SX11				32	3SK32	土坑	近世	
14	3SX14				33	3SX33			
15	3SD15	溝	中～近世	3SD45→3SD15	34	3SX34			
16	3SX16				35	3SD35	溝	近世？	
18	3SX18		中世？		36	3SX36			
19	3SK19	土坑			40	3SK40	土坑		3SK28→3SK40
20	3SX20				45	3SD45	溝	中世？	3SD45→3SD15
21	3SK21	土坑		3SK24→3SK21	50	3SD50			
22	3SK22	土坑							

Tab.1 遺構番号台帳

S-1周辺		S-15周辺		S-30	
瓦器 片		土師器 片		土師器 片	
S-2		磁器 染付片		瓦器 片	
土師器 片		陶器 片		磁器 片	
S-2周辺		S-16		S-32	
土師器 片		土師器 片		土師器 片	
S-3		S-18		瓦器 片	
土師器 片		土師器 环片、片		瓦器 片	
S-5		磁器 片		その他 寛永通宝	
土師器 片		S-19		S-33	
瓦器 鉢、片		土師器 片		陶器 片	
S-5周辺		S-20		S-35	
瓦器 片		土師器 片		土師器 片	
S-6		磁器 片		磁器 染付片	
土師器 片		S-21		陶器 片	
磁器 青磁片、染付片		土師器 片		S-36	
S-7		S-24		土師器 片	
土師器 片		土師器 片		S-40	
磁器 染付片		磁器 染付片		土師器 片	
土製品 ミニチュア(?)片		陶器 片		瓦器 片	
石器 石鐵		S-26		磁器 片	
S-7周辺		土師器 片		S-45	
土師器 片		磁器 青磁片		土師器 片	
S-8		S-27		磁器 青磁片、染付片	
瓦器 鉢		土師器 片		S-27	
S-8周辺		S-28		土製品 土鍤	
土師器 片		土師器 片		S-50	
S-14		磁器 青磁片		土師器 片	
磁器 片		陶器 握鉢片		磁器 片	
S-15		その他 鉄塊		S-28	
土師器 底部片、片				土師器 片	
磁器 青磁片、染付片				磁器 片	
土製品 土鍤				土師器 片	

Tab.2 出土遺物一覧表

Fig.-No.	遺構番号	R-番号	遺物名	器種名	器高(cm)	底径(cm)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	残存	備考
											○→復元値 △→現存値
5-1	3SD05	1	瓦器	鉢	△ 5.45						口縁部破片
5-2	3SD15	1	土師器	鍋	△ 2.35						口縁部破片
5-3	3SD15	2	染付	碗	△ 1.85						口縁部破片
5-4	3SD15	3	青磁	碗	△ 2.40						体部破片 龍泉碗
5-5	3SD15	5	土製品	土鍤				5.65	1.25	1.15	完形
5-6	3SD35	1	染付	碗	△ 2.65						口縁部破片
5-7	3SD45	1	染付	皿	△ 1.60	○ 5.00					高台部1/4
5-8	3SD45	2	土製品	土鍤			△ 4.65	1.20	1.05	1.05	一部欠損
5-9	3SD50	1	土製品	土鍤			3.00	1.10	1.00	1.00	一部欠損
5-10	3SK28	1	陶器	擂鉢	△ 4.70						口縁部破片
5-11	3SX07	1	染付	碗	△ 3.35						口縁部破片
5-12	3SX08	1	瓦器	鉢	△ 4.05						口縁部破片
5-13	遺構検出面	1	青磁	碗	△ 2.60						体部破片 龍泉碗

Tab.3 出土遺物観察表

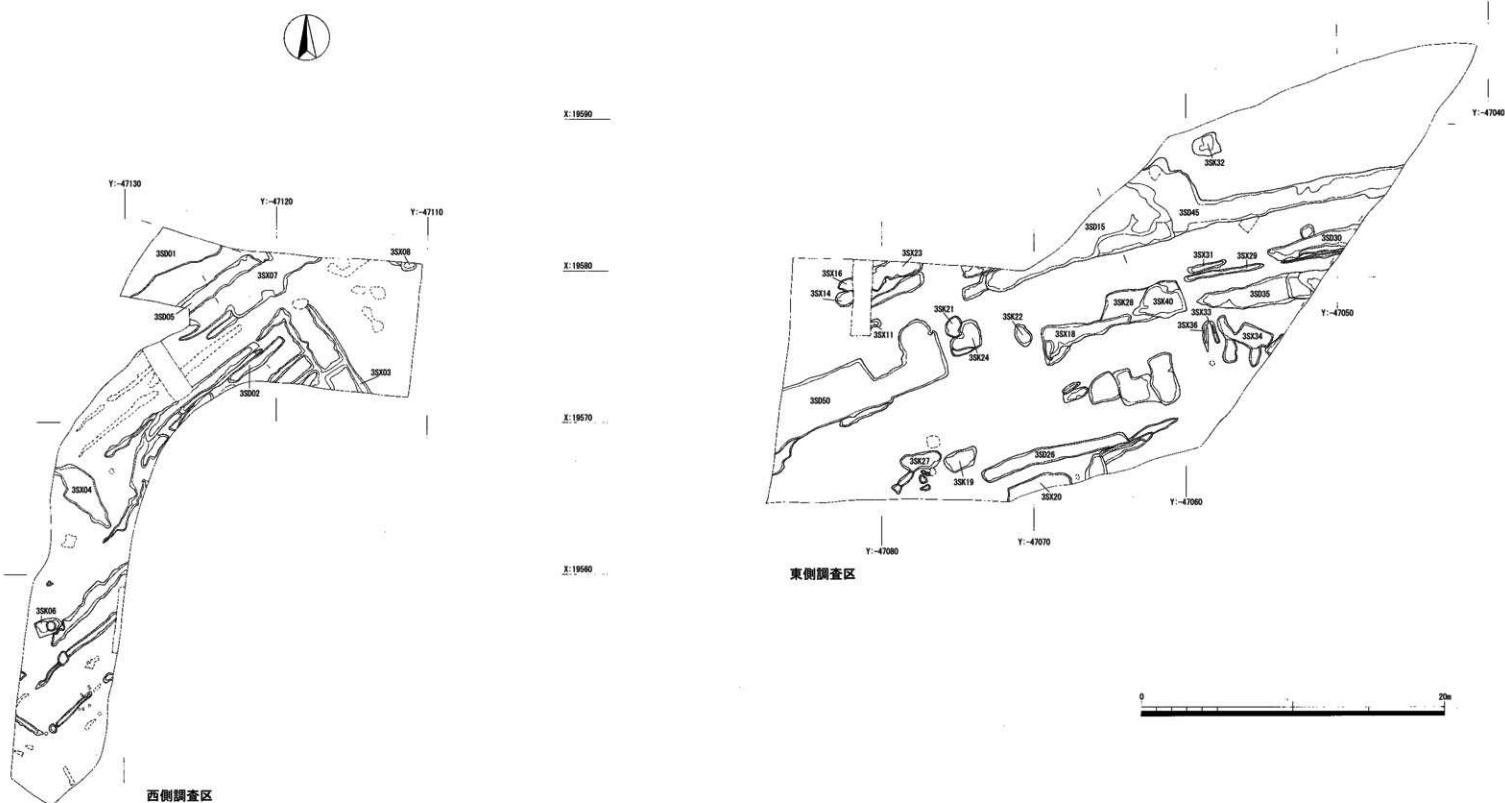
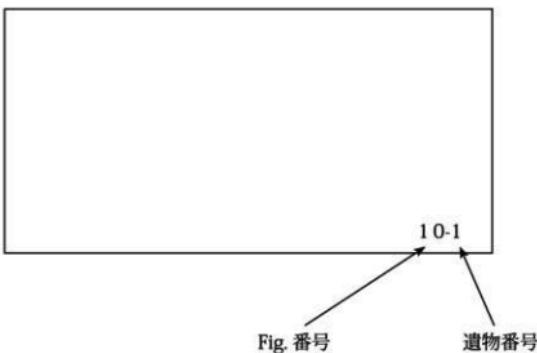


Fig.6 遺構全体実測図(1/250)

P L A T E

凡 例

遺物写真右下の番号は、以下のとおりである。





Pla.1 調査区全景（空中写真：西から）



Pla.2 西側調査区完掘状況（空中写真：上が北）



Pla.3 東側調査区完掘状況（空中写真：上が北）



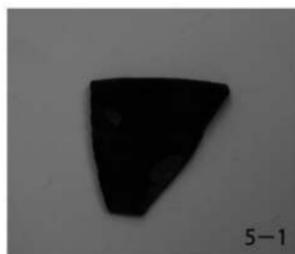
Pla.4 3SD01 完掘状況（北から）



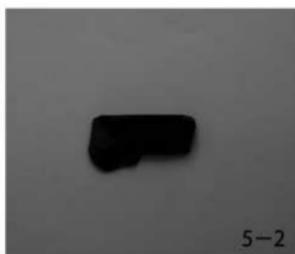
Pla.5 3SD30 完掘状況（東から）



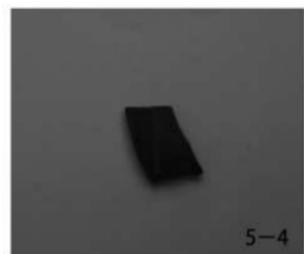
Pla.6 3SD35 完掘状況（東から）



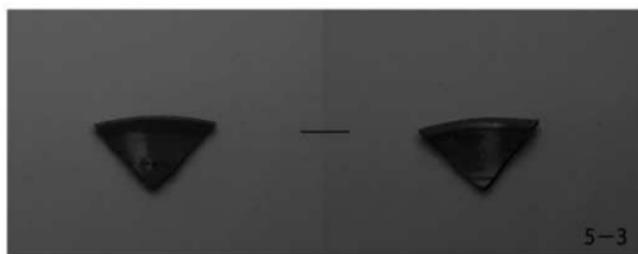
5-1



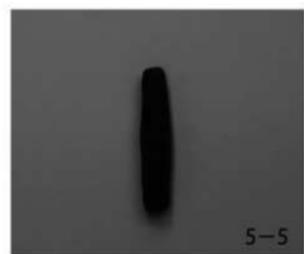
5-2



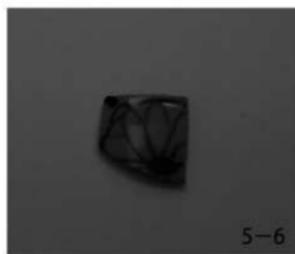
5-4



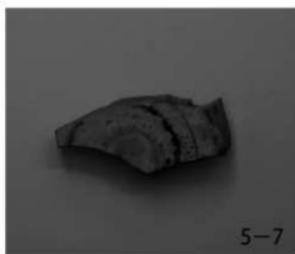
5-3



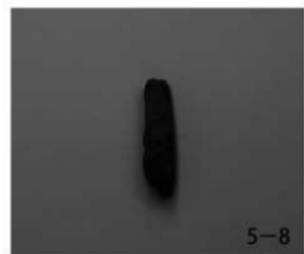
5-5



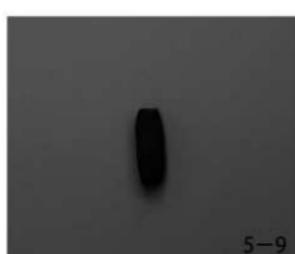
5-6



5-7



5-8

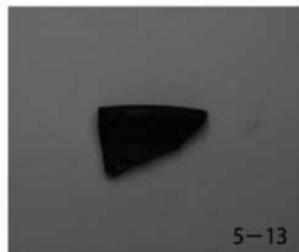
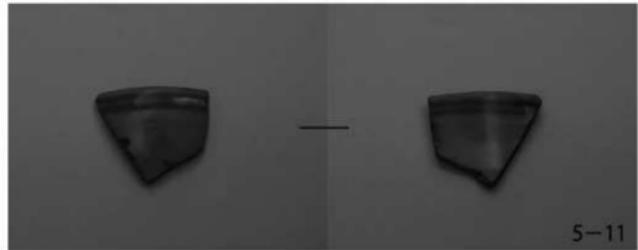


5-9



5-10

Pla.8



筑後市文化財調査報告書 第91集

津島洲崎遺跡

平成22年3月31日

発行 筑後市教育委員会
福岡県筑後市大字山ノ井 898
TEL 0942-53-4111

印刷 株式会社 秀明社印刷
大牟田市中白川町3-172
TEL 0944(52)5601

